

一般質問



LD、AD・HDの対策について 幼稚園、保育園と一体の取り組みについて

藤原 万正

地域座談会について

質問 行財政改革に迫られる地方自治体、限られた財源の中でどう住民の要望に添えて行くのか、その手腕が問われている。又、住民は従来の行政依存型から脱却し、参加しながら、共に地域を築いて行くという、自治の原点に帰り、実践する事が求められている。そう言った意味からも直接対話型行政が大事であり、地域座談会の開催は時宜を得たものと言える。開催の状況とその結果と、今後の課題を伺いたい。

市長 地域座談会は七月末から仙北市内十ヶ所で開催した。参加市民は一会場五名から三十七名、総参加者は一七六名であった。各会場で要望や意見、様々いただいたが、地域固有の問題についての意見が多かった。報酬等についての意見は四会場であった。参加者が一会場平均十七、八名の事から、もっと多くの市民から参加して頂けるよう、会場の選び方、開催時間、時期等と共に事前に市民への周知の仕方など、考慮する必要があると思っている。

LD(学習障害)、AD・HD(注意欠陥、多動性障害)の対策について

質問

これまでの特殊教育に
おいては障害の種類に
応じた、きめ細やかな教育が行
われて来たが、今、通常の学
級の児童生徒で、知的遅れは
無いが学習上特別な配慮が必
要な子供達が相当数いる事で
問題化している。当市のLD、
AD・HD児童生徒の現状と
その対策についてを伺いたい。

市長

LDやAD・HDにつ
いては一元的でなく、障
害が重複して発症している場
合が多い。こうした障害等で
特別な支援を要する児童に対
しては市内の七つの小学校に
十名の生活サポート職員を配
置、中学校にはスクールカウ
ンセラー事業で五名の臨床心
理師に委嘱し、学校における
教育相談の充実を図っている
所である。今年度は更に角館
西小に教育研究室を新設、A
D児童を含めて通級による指
導と各学校への助言や指導を
行っており、今後も指導体制
を強化していきたい。

幼稚園・保育園と一体の 取り組みについて

質問

文部科学省と厚生労働
省では保育園と幼稚園の
両方の機能を備える「認定子
ども園」を十月が本格的実施
に向けてスタートする方針で

ある。

当市の考え方、取り組みに
ついて伺いたい。

市長

認定子ども園は国では
十月スタートだが、県段
階で今、これに係る条例化の
作業を進めている状況であ
る。仙北市の保育施設の内、
神代の子ども園、生保内のだ
しの子園は認定子供園に近い
位置にあると思うし、西木の
にこにこ保育園も又、これに
近い位置にある。これまで幼
保連携を進めて来た経緯と認
定子ども園のメリットを見つ
めその観点からすると、課題
は多いが、認定子ども園への
移項を進めたいという考えで
いる所である。

質問

AED自動対外式除細
動器は平成十六年七月か
ら、医師や救急救命士に限ら
ず誰もが使用出来るようにな



庁舎避難訓練でのAED講習

り、心臓突然死に対する救命
の道が広がった。

市のAEDの設置現状と今
後の対応そして講習の開催に
ついて伺いたい。

市長

AED器は市内では
玉川温泉とカヌー協会
が保有、救急車三台にも配備
している。庁舎の避難訓練で
は消防署のAEDで職員が使
用の講習を行った。今後は公
的機関への配備や市民への講
習も検討して行きたい。

質問

子供が学校の帰りに
犯罪の被害に遭うケ
スが相次いでいて、小学生を
持つ親達の不安は大変大きな
ものがある。そんな中で親た
ちが頼りにしているのが放課
後保育である。所管の厚労省
と文科省がこれまでは各個に
行って来たが、来年度からは
両者が連携して「放課後子ど
もプラン」事業を始める事と
なった。当市の放課後保育へ
の考え方についてを伺いた
い。

市長

学童保育は放課後自
動クラブとして空教室
を利用し、市内三小学校で行
っている。西明寺小学校でも
検討を進めている所である。
来年度からの放課後子ども
プラン事業では全ての小学校
を対象とし推進を図りたい。